

平成 21 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007年度～2008年度

課題番号：19520162

研究課題名（和文） 享受史の側面から見た物語絵本の研究

研究課題名（英文） A Study of Illustrated *Monogatari* from the Viewpoint of Their Reception History

研究代表者

徳原 賜鶴子(青木賜鶴子) (TOKUHARA AOKI SHIZUKO)

大阪府立大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：60180139

研究成果の概要：大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵絵入版本（「絵入源氏」「源氏小鏡」「十帖源氏」「源氏物語大概抄」等）のデジタルアーカイブを作成した。成果はすべてDVD-ROM及びCD-ROMに収録して大阪府立大学に配備するとともに、web上でも一般公開する予定である。また、物語享受史における物語絵本の役割とその意義について明らかにするため、物語本文と絵との関係、版本に影響を与えた絵巻について考察した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学、美術史

1. 研究開始当初の背景

平安時代の物語と絵画の相関関係については、国文学研究・美術史研究の各方面から進められ、国宝の「源氏物語絵巻」（徳川美術館・五島美術館等所蔵）をはじめ、梵字経刷白描伊勢物語絵巻断簡（逸翁美術館、大和文華館他諸所に所蔵）、「伊勢物語絵巻」（和泉市久保惣記念美術館所蔵）等の平安時代後期から鎌倉時代初期にかけて製作されたとおぼしい物語絵巻を中心に、現在までに数多くの複製・影印・翻刻・研究書等が刊行されてきた。

江戸時代以降に製作された源氏物語絵では、後の源氏物語絵入版本に大きな影響を与えた山本春正の「絵入源氏」慶安三年跋大本についての研究が比較的進んでおり、影印本『絵本 源氏物語』（貴重本刊行会 1988）のほか、本文・絵・注釈のデータベース（国文

学研究資料館データベース—古典コレクション『源氏物語（絵入）〔承応版本〕CD-ROM』岩波書店 1999）等によって、物語絵本研究の環境は整備されつつある。

しかしながら、その「絵入源氏」慶安跋大本について、刊記を同じくする別版のいずれが初版であるのかは未だ定説を見ず（吉田幸一『絵入本源氏物語考』青裳堂書店 1987、清水婦久子『源氏物語版本の研究』和泉書院 2003 等）、慶安跋大本の影響下にある横本、小本をはじめ、「絵入源氏」以降の版本については、公開された資料に乏しく個人による原本の直接調査に負うところが大きいのが現状である。

幸い、大阪府立大学学術情報センター図書館は「絵入源氏」慶安跋大本の同刊記別版 2 種のほか種々の物語絵入本を所蔵しており、既に国文学研究資料館による調査と撮影（モ

ノクロフィルム)が行われている。応募者は講義などの機会あるごとに館蔵本の調査を進めてきたが、大阪府立大学大仙キャンパス(大阪女子大学)に於いて開催された平成17年度中古文学会秋季大会の際、館蔵の源氏物語絵入版本を展覧に供し、事前調査によって得られた知見の一部を発表した(「源氏物語絵入版本のさまざま—大阪女子大学附属図書館所蔵版本の紹介—」『平成十七年度中古文学会秋季大会 図書展覧目録』2005)。

江戸時代以降製作の伊勢物語絵に關しても事情は同様であり、後の絵入版本に対する影響が大きい嵯峨本「伊勢物語」を中心に研究が進められてきたが、最近の報告『嵯峨本『伊勢物語』(第一種本)の考察と検証』(私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会書誌学研究会 2006)では、PCを用いたデジタルファイルでの比較によって、従来の研究(例えば、川瀬一馬『嵯峨本図考』1932)で「嵯峨本第一種」として一括されてきたものでも、全く同一の版はないことが論証されている。

以上のように、同一の本文・挿絵・刊記を持つ版本であっても詳細に見れば別版と考えるべき場合があることから、版本研究に際しては、前記『嵯峨本『伊勢物語』(第一種本)の考察と検証』で試みられたようなPCを用いたデジタルファイルでの比較がもっとも効率的であり、版本の画像をデジタルファイル化して詳細に比較する必要があると考えられる。

このような版の相違は、出版上の必然すなわち享受と深く関わる部分での必然からもたらされたものに相違なく、「享受史の側面から見た物語絵本の研究」の意義が見出せる。もとより、物語のどの本文によってどのように絵画化されているか、どのような本文上の特色があるかを探ることは、物語本文がどのように解釈され享受されてきたかを探ることと同等である。

2. 研究の目的

大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵の絵入版本(「絵入源氏」慶安跋承応三年刊大本、万治三年刊横本、無刊記小本、「源氏小鏡」絵入本、野々口立圃「十帖源氏」、同「おさな源氏」、「源氏物語大概抄」など)について、版面をすべてデジタル化し、研究及び公開に適した形になるよう加工してデジタルアーカイブを作成するとともに、同種他館所蔵本について、既公開のCD-ROM、データベース等を積極的に利用しつつ、各々の版面の文字・挿絵等の欠損状況を詳細に比較することによって先後関係を検討し、物語絵本享受の実態、物語享受史における物語絵本の役割とその意義を明らかにすることをめざす。

3. 研究の方法

- (1) 大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵絵入版本悉皆調査(『大阪女子大学和漢書分類目録』による)、及び撮影・調査計画立案
- (2) (1)により、大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵絵入版本についてスキャナを用いたデジタル撮影
- (3) (2)で撮影したファイルを研究及び公開に適した形になるよう加工し、デジタルアーカイブを作成
- (4) (3)及び同種の他館所蔵本について、調査及び比較研究
- (5) 並行して、物語享受史における物語絵本の役割と意義について考究

4. 研究成果

- (1) 大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵絵入版本のデジタル・アーカイブを作成した。

版本の画像はすべてDVD-ROM およびCD-ROM に収録して大阪府立大学学術情報センター図書館に配備するとともに、近い将来にweb上でも一般公開する予定である。

調査・撮影した絵入版本は次の通りである。書名の次に函架番号と略解題を記す。

- ・「**絵入源氏**」大本(甲)(913.36/M2-21)
慶安跋承応3年(1654)刊記。大本。60冊。夢浮橋巻末と引歌巻末に刊記がある。刊記「承応三甲午稔八月吉日 洛陽寺町通八尾勘兵衛開板」(夢浮橋)。柱に巻名と丁付けを付す。
- ・「**絵入源氏**」大本(乙)(913.36/M2-21)
慶安跋承応3年(1654)刊記。大本。甲の異版。59冊(60冊のうち須磨欠)。刊記、本文、絵ともに甲と同じだが、柱には巻名と丁付けがなく、ノドに「キリツホ イー」「イニ」などと丁付けを付す。なお篝火、空蟬、夕顔、若紫、末摘花の5巻は写本であり、挿絵皆無で、ノドの丁付けもない。
- ・「**絵入源氏**」万治三年刊横本(913.36/M2-22)
万治3年(1660)刊。横本。30冊。刊記「龍集万治三年庚子 除念一日 林和泉掾板行」
- ・「**絵入源氏**」無刊記小本(913.36/M2-23)
無刊記。小本。30冊。巻毎に丁付けがあり初版は60冊と推測されるが、60冊本は知られない。挿絵は大本と殆ど同じ構図。寛文頃の刊か。
- ・「**絵入源氏小鏡**」(913.36/F4-3)
明暦3年(1657)安田十兵衛刊。3冊。刊記「明暦三年丁酉仲秋吉辰 洛陽三条寺町請願寺前 安田十兵衛開板」。

- ・「源氏小鏡（絵入）」(913.36/F4-2)
上中下3冊のうち上を欠く。刊記「江府文林堂 日本橋南壱丁目 須原屋茂兵衛 改正」。江戸時代中期頃の刊か。
- ・野々口立圃「十帖源氏」(甲) (913.36/N4-2)
承応3年(1654)跋。万治4年(1661)刊記。10冊のうち第3冊を欠く。「万治四年卯月吉辰 立圃」と立圃の署名があるが、署名は入木と思しく、万治四年荒木利兵衛版の後刷と考えられる。
- ・野々口立圃「十帖源氏」(乙) (913.36/N4-2)
無刊記。10冊のうち第3冊を欠く。『十帖源氏』の初版と思しい。
- ・野々口立圃「おさな源氏」(913.36/O6)
寛文12年(1672)刊。5冊。外題は「おさな源氏物語」。刊記「寛文十二歳壬子四月吉辰 松会開板」。版本の絵に色を塗った丹緑本。
- ・「源氏鬢鏡」(ヤ9/7)
天和3年(1683)刊。4冊。書名は巻末の「鬢鏡後序」による。外題は「源氏物語絵抄」。刊記「天和三年亥七月吉旦 京 永田長兵衛開板」。
- ・「源氏物語大概抄」(913.36/N4)
無刊記。3冊。野々口立圃の『おさな源氏』の後刷改題本で、天明8年(1788)以降の刊と指摘されている。挿絵は『おさな源氏』寛文10年(1670)山本義兵衛版(吉田幸一氏によれば寛文元年立圃自跋署名本も同じ)とすべて一致し、『十帖源氏』の画面をそのまま、あるいは反転してしまっただけ利用している。山本版は5巻10冊だが、1~2巻と4~5巻を合わせて上中下の3冊とする。なお該本は下巻の橋姫巻~東屋巻の一部(山本版で5巻冒頭)を脱している。
- ・「源氏大和絵鑑」(913.36/H4)
貞享2年(1685)鱗形屋版。2冊。他の版は知られない。外題は「新板 源氏絵鑑」。菱河師宣画。各巻に1図ずつの絵を丸枠内に描き、後光明院御製の巻名和歌と簡単な巻の説明を記す。絵の場面は各巻の最も代表的な箇所が選ばれている。刊記「貞享二年丑四月吉日 大和絵師 菱河氏師宣筆 大伝馬町三丁目 うるこかたや開板」
- ・「源氏物語錦絵」(913.36/I7)
1合。歌川豊国二世(国貞改、一陽齋、香蝶楼)画。一筆齋刊。1巻1枚で54枚揃。巻名の由来となった和歌、源氏香図を付す。文政8年から天保頃(1825~1840頃)の刊か。
- ・「源氏物語絵尽大意抄」(913.36/K5)
天保8年(1837)刊。1冊。源氏香図を付す。溪斎英泉画。『源氏物語』の巻毎の絵に、巻名の由来となった和歌、源氏香図

- を付し、頭書に源氏講釈を載せる。巻頭に多色刷の近江八景図と和歌を付載。刊記「右 元板文化九壬申年 再板天保八丁酉年 江戸芝神明前 和泉屋市兵衛板」
- ・「絵入竹とり物語」(甲) (913.31/T)
2冊。表紙中央刷題簽「絵入竹とり物語 上(下)」。下第19丁ウ(本文最終丁)に埋木をして「茨城多兵衛門板」とある。
- ・「絵入竹とり物語」(乙) (913.3/2)
2冊。表紙左肩刷題簽「絵入竹とり物語 上(下)」。下第19丁ウ(本文最終丁)に埋木をして「書堂柳枝軒」とある。刊記以外は本文・題簽ともに甲本と同じ板木を用いている。
- ・「絵入伊勢物語」(913.32/I)
宝暦6年(1756)刊。2冊。表紙中央朱地刷題簽「絵入伊勢物語 上(下)」。刊記「宝暦六丙子年初冬吉辰/画工 月岡丹下/彫刻 藤村善右衛門/書林 大坂心齋橋筋順慶町 相原屋与左衛門」。
- ・「伊勢物語」(913.32/I11)
上下2冊のうち下欠。表紙中央刷題簽「伊勢物語 上」。第1丁オに業平の肖像を載せる。
- ・「新版大字伊勢物語」(913.32/I12)
宝暦6年(1756)刊。2冊。表紙中央刷題簽「新版大字伊勢物語 上(下)」。上冊第1丁オに業平の略歴と肖像、下冊第1丁オに伊勢の略歴と肖像を載せる。刊記「宝暦六丙子夏求板/画工 西川右京祐信/彫工 山本喜兵衛/書林 松原通西洞院 東入町 美濃屋平兵衛版」。
- ・「伊勢物語」(913.32/I15)
上下2冊のうち上欠。表紙左肩書題簽「伊勢物語」。最終丁欠。
- ・「うつほ物語」(913.34/U)
延宝5年(1677)刊。30冊。刊記「竅物語全部三十巻/神戸氏所持之/延宝五丁巳年/初春吉辰開板」。延宝五年版本の問題点として、題簽の巻名と内容が相違することが既に指摘されている。題簽の右下に朱筆による巻序書入があり、現在はそれに従って、「蔵開上之一」「蔵開上之二」「蔵開中」「蔵開下」「楼のかみ上之一」「楼のかみ上之二」「楼のかみ下之一」「楼のかみ下之二」「菊の縁上」「菊の縁下」「藤原の君」「たつの村鳥」「たゝこそ」「ふきあけ上」「ふきあけ下」「祭の使」「さかの院上」「さかの院中」「さかの院下」「梅の花かさ」「初秋上」「初秋下」「としかけ上」「としかけ下」「あてみや」「国ゆつり上之一」「国ゆつり上之二」「国ゆつり中之一」「国ゆつり中之二」「国ゆつり下」の順になっている。
- ・「うつほ物語」(913.34/U-2)
万治3年(1660)刊。3冊。表紙中央刷題簽「うつほ物語 上(中・下)」。俊蔭巻

のみを絵入版本としたもの。上中下3冊であるが、柱の丁づけは上中下を区別せず連番になっているので、もとは1冊本として出されたのであろう。第92丁（最終丁）に刊記「洛陽今出川 林和泉掾開板」、同丁柱に「万治三年庚子歳仲秋日」。

・「うっほものがたり」(913.3/I)

万治3年(1660)刊。1冊。表紙中央書題簽「うっほものかたり」。俊蔭巻のみを絵入版本としたもので、上と同版。第92丁（最終丁）に刊記「洛陽今出川 林和泉掾開板」、同丁柱に「万治三年庚子歳仲秋日」。

- (2) 物語享受史における物語絵本の役割とその意義について明らかにするため、物語の挿絵と本文との関係、及び版本に大きな影響を与えた物語絵巻について、静嘉堂文庫所蔵「伊勢物語絵巻」を中心に考察し、発表した。

静嘉堂文庫所蔵「伊勢物語絵巻」(函架番号一〇五一五七/二九二〇六)は、室町時代中後期頃の書写とおぼしい1軸の絵巻で、詞は第71段末尾から第90段まで、絵は5図のみの零本である。この絵巻については、『マイクロフィルム版 静嘉堂文庫新収古典籍』(雄松堂書店、2000年)に「伊勢物語(絵入本)」として収載され、その全容が公開されたが、これまではあまり注目されてこなかった。

しかし、絵5図の場面選択とその図様は、最も古い完本として知られる大英図書館所蔵「伊勢物語図会」、小野家所蔵「伊勢物語絵巻」(ともに室町時代後期書写)とすべて一致し、おおもとの祖本が共通すると考えられる。そこで、この3本の図様を比較検討し、室町時代に存在したと考えられる祖本の図様を推測するとともに、紙継の状況から、静嘉堂文庫本の詞書に対応する絵は本来7図であったと考えられることを明らかにした。あわせて、静嘉堂文庫本の詞書本文を検討し、誤写と一部補筆部分を除けば、おおむね非定家本系の本文をもつことを明らかにした。

また、大英図書館本・小野家本の絵がどのような伊勢物語本文に基づいて描かれているかを考察した結果、現在一般的な定家本系の本文ではなく、非定家本系の本文をもとに描かれていた可能性があることを明らかにした。つまり祖本の絵巻も、非定家本系の本文をもち、その本文をもとに絵が描かれていた可能性があるということであり、その意味で、零本ではあるものの両本と共通する図様をもち祖本を同じくすると思われる静嘉堂文庫本の本文が非定家本系の本文を伝えることは非常に示唆的である。静嘉堂文庫本は、詞・絵と

もに、大英図書館本・小野家本など一群の絵巻の祖本の様子を探る手掛かりとなる伝本として、重要な位置にある絵巻と考えられるのである(「5. 主な発表論文等」雑誌論文①②、学会発表①②)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

- ① 青木賜鶴子「静嘉堂文庫所蔵「伊勢物語絵巻」—紹介とその位置づけ—」、山本登朗、ジョシュア・モストウ編『伊勢物語創造と変容』221-243頁、和泉書院、2009年、査読有
- ② 青木賜鶴子「室町期伊勢物語絵巻の一樣相—静嘉堂文庫所蔵「伊勢物語絵巻」が語るもの—」、『言語文化学研究 日本語日本文学編』3号、1-12頁、2008年、査読無

[学会発表](計 2件)

- ① 青木賜鶴子「大英図書館所蔵「伊勢物語図会」について」、中古文学会関西支部会第17回例会、2007年9月8日、大阪大学
- ② 青木賜鶴子「静嘉堂文庫所蔵「伊勢物語絵巻」について」、UBC Tales of Ise Workshop、2007年8月22日、カナダ

[その他](計 4件)

- ① 青木賜鶴子「源氏物語と絵画—本学所蔵本を中心に—」(講演、大阪府立大学所蔵絵入版本を中心とする考察)、学術情報センター講演会「古典籍へのいざない」、2008年11月
- ② 青木賜鶴子「『絵合』の巻再現」(講演、「絵合」巻に見える物語絵巻の再現と考察)、エコール・ド・ロイヤル特別公開講座、2008年6月
- ③ 青木賜鶴子「紫式部日記と源氏物語」(講演、文学と絵画との関係に関する考察)、教養講座「源氏物語をよむ」、2008年6月
- ④ 青木賜鶴子「伊勢物語と絵画」(講演)、教養講座「伊勢物語の世界」、2007年6月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

徳原 賜鶴子(青木賜鶴子)

(TOKUHARA AOKI SHIZUKO)

大阪府立大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：60180139